

## 第 1 回 吹田操車場跡地まちづくり環境再生推進会議 議事概要

### 1. 日時

平成 20 年 2 月 5 日（火）午後 2 時から 4 時まで

### 2. 場所

大阪府庁本館 5 階 監査室

### 3. 出席委員

国土交通省 近畿地方整備局 建政部 都市整備課長 田雑 隆昌  
環境省 近畿地方環境事務所 環境対策課長 野田 好和  
経済産業省 近畿経済産業局 地域経済部 地域開発室長 山本 陽一  
大阪府 政策企画部 企画室 参事 春名 克俊  
摂津市 都市整備部長 山脇 智  
独立行政法人都市再生機構 業務ユニット 部長 佐々木 功  
吹田市 都市整備部 理事 大村 秀一  
関西大学環境都市工学部 教授 江川 直樹  
大阪学院大学 経済学部 教授 鎌苅 宏司

### 4. 議事概要

#### (1) 開会あいさつ（吹田市富田副市長）

大変お忙しいところを当会議にご参集賜ったことに感謝している。本市は、「環境世界都市すいた」の実現を目指す、という意味を明確にした。これは、人が自然生態系の中で生かされている、という視点に今一度立ち返り、地域から持続可能な都市モデルを世界に発信するという概念である。

吹田操車場跡地でのまちづくりは「環境世界都市すいた」の実現をリードする役割があり、この地での環境先進的なまちづくり手法を千里ニュータウンの再生や、市域全域に広げる手法・プロセスこそが、低炭素社会、脱温暖化社会を実現する一つのモデルになると考えている。

1 月 29 日には、福田首相の施政方針演説を受け、政府の地域活性化統合本部で、「環境モデル都市」として、10 市町村を選定することが発表された。7 月の北海道洞爺湖サミットにおいて、開催国であるわが国がリーダーシップを発揮するためにも、「環境立国日本」の具体像を発信する必要がある。

本市としても、吹田操車場跡地において、環境モデル都市としての選定も視野に入れながら、地域から環境先進的なまちづくりを実現し、世界に発信してまいりたい。

当地のまちづくりにつきまちは「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点の創出」という基本方針により、環境に最大限の配慮を行いつつ、地区の中央部に「医療健康創生ゾーン」と「教育文化創生ゾーン」を設定し、導入する機能を明らかにしている。今後、まちづくり計画に基づくコンペを行い、広くまちづくりのアイデアを募集し、さらに平成 21 年度には、事業コンペを実施する予定としている。

当地域が有する立地ポテンシャルの高さとして、最も大きなものは、交通便利性である。東西国土軸上に位置する本市は、36km<sup>2</sup> というコンパクトな市域ではあるが、その中に 14 を数える鉄道の駅を有し、吹田インターチェンジにおいて名神高速道路、中国自動車道、近畿自動車道が結節するという恵まれた環境にある。

これにより、近接する梅田や新大阪駅はもとより、京都、神戸から 30 分、大阪国際空港、関西国際

空港、神戸空港までいずれも一時間圏内にあるという高いアクセシビリティにより、多くの知的機能の集積が実現し、併せて本市の特長となっている。

特に高度医療機関として、国立循環器病センターや大阪大学医学部附属病院、歯学部附属病院が、立地しており、医療のポテンシャルが非常に高く、アメリカのミネソタ州のロチェスター市のメイヨークリニック、あるいはピッツバーグに匹敵するものではないかと思っている。そういう意味ではメディカルあるいはエコロジカルというものが融合する新しいジャンルがあってもいいのではないかと考えている。また、教育研究機関としても、大阪大学をはじめ、関西大学、大阪学院大学、千里金蘭大学と4つの4年制大学や、国立民族学博物館が立地しており、これに伴い、市内には多くの医師や研究者が在住している。これらの機関のみならず、それに伴う人材が、本市の大きな地域財となっている。

かつて隆盛を誇った吹田操車場がその機能を停止して以来23年間、利用されてこなかったこの地には、これまでの市民の熱い想いと、今の市民の大きな期待、そして未来の市民に対する夢と責任が織り込まれている。この地でのまちづくりは、北大阪のみならず関西経済にとっても大きなインパクトをもたらす可能性を秘めており、広くお知恵を拝借し、民間の活力も生かしながら、市の地域価値を向上させるようなプロジェクトを実現してまいりたい。

本日、当会議に御参画いただいた皆様には、今から3年後に予定している「まちびらき」に向けて、市民の、府民の、そして国民の誇りとなるような、美しく豊かなまちが創出できるよう「環境先進モデルの実現」という共通項のもと、組織横断的なお知恵とお力を頂戴したい。

本来、市長がまいり一言ご挨拶を申し上げるべきところではあるが、私より市の想いをお伝えさせていただいた。今後とも、よろしく願いたい。

## (2) 会議の趣旨説明及び自己紹介

吹田市都市整備部大村理事より会議の趣旨説明及び各委員、アドバイザーによる自己紹介を行った。自己紹介の概要は、以下のとおり。

### ●山本委員

近畿経済産業局では、地域経済部として、産業クラスター計画というものがあり、環境をテーマに産業のクラスターを形成し、新産業を応援するという取組みを行っている。新しい産業作りができればと参加させていただいている。企業立地については、困難な面もあると思うが、みなさんと一緒に考えて行きたい。

### ●野田委員

地方環境事務所は、環境省の出先機関で全国に7ヶ所ある。業務の範囲が広く、ごみ以外は、環境教育からアセスメントまでほとんど担当している。また、石油特会による補助事業なども行っている。吹田操車場跡地については、現地も拝見しており、個人的にも非常に興味があり、役に立てればと思っている。

### ●春名委員

梅田貨物駅の移転、吹田操車場跡地の問題に関して、吹田市、摂津市等と協力してこれまで取り組んできた。吹田操車場跡地のまちづくりについては、環境を大切にしまちづくりということで、非常に期待している。環境問題について、大阪府では、2010年度温室効果ガスの排出量を1990年度を基準に9%の削減目標を掲げている。具体的な取組みとして、平成18年度に温暖化防止条例を制定し、エネ

ルギーを多く消費する民間事業者などから温室効果ガス排出量を報告していただき、公表している。ヒートアイランド対策についても、民間事業者に対して、屋上緑化に関する助成を行っている。また、E3バイオエタノールガソリンを普及させるということで、環境省から事業の委託を受けており、堺市では平成19年にそれを製造する施設が完成し、府下5ヶ所のガソリンスタンドでE3の供給に協力してもらっており、大阪府としても積極的に環境問題に取り組んでいる。

#### ●山脇委員

摂津市では、平成22年の春に阪急京都線において、摂津市駅が開業予定で、民間主導によるまちづくりの計画を進めている。このまちづくりの特徴は地球温暖化、排ガス削減をテーマとして進めており、出来ればそのノウハウを吹田操車場跡地のまちづくりにも活かしたいと考えているが、環境再生と事業成立をどのようにしていくかということは課題になってくる。採算性と環境保全のベクトルが反対を向いていることもあるが、こういった会議でみなさんと意見を交わしながら操車場跡地のまちづくりに役立てていきたい。

#### ●佐々木委員

都市機構は、吹田操車場跡地のまちづくりについては、土地区画整理事業及び防災公園事業の施行者の立場である。環境については、持続的に発展可能な社会の構築、自然との共生、都市構造の転換といったことが都市機構としてのまちづくりにとって非常に重要なテーマである。

地球温暖化対策では、環境報告書に二酸化炭素の排出削減の目標を掲げている。具体的な取組みとしては、建設工事のリサイクル、リユース、風の通り道などの土地利用の計画設計における取組み、民間企業に土地を譲渡する際の環境に配慮した譲渡条件の設定などの取組みがある。

埼玉の越谷レイクタウンでは、新駅が開設され、まちびらきが3月に予定されているが、非常に広大な調整池を作り、水辺と一体となったまちづくりを進めている。また、街区全体からのCO2の削減として環境省のモデル事業も実施している。(まち・住まいと環境 冊子配布)

#### ●田雑委員

吹田操車場跡地のまちづくりに関しては、基盤整備を主として、都市計画やまちづくりについて応援させていただいている。昨今、環境問題への取組みが当然のことになりつつあるが、環境に配慮した新しい市街地整備のあり方が課題であると認識しているが、単に街路樹を植えれば良いというものではなく、街路樹にしても水面にしてもどのように作れば人にとって安らぎやゆとりを感じさせることができるのかということを検討していくことが重要であると考えている。吹田市がこういう形で会議を立ち上げ、第一歩を踏み出したということであるので、我々としても改めて協力してまいりたい。

#### ●江川アドバイザー

吹田操車場跡地まちづくり計画委員会から引き続き参加させていただいている。専門は建築及び建築を取り巻く環境のデザインで、どちらかというと設計をする立場である。環境再生、人と環境の共生などといわれているが、特に、吹田では、環境と人が共生するという姿を目に見えるかたちで実現していただきたい。産業革命以降、文明社会になってから、いろいろなことがブラックボックスに入ってしまった、一般市民から見えない中で、行われている。結果、わからないことがわからないままに、みんなが確認できないまま進んできたことが、最近であれば景観法が制定され、景観の乱れなどがあるが、気が付いてみれば、われわれを取り巻く景観がどうも違っているのではということになってきたのではと

思う。また、今年に入り、歴史まちづくりということで、新しく法律ができ、取組みが進むと聞いているが、歴史まちづくりは比較的、誰もが目に見える分かりやすい取組みであると思う。

これからは、文明も大切であるが、もう少し文化的視野にたって、継続的、持続的に取組んでいくことが、次の世代にとって最も重要である。

特にこの吹田操車場跡地は、非常にリニア、長い細い形をしているので、一般市民、鉄道に乗っておられる方から目にふれやすい場所となっているので、誰がみてもなるほど、これが次の時代のありようなのだとわかるような具体的な形の中で、環境先進まちづくりを実現していただきたいと思う。

#### ●鎌苅アドバイザー

専門は、公共経済学、環境経済学、財政学で、最近は、環境税に関する本も出させてもらっている。

目に見える形というものが、大きなキーワードになる。例えば、ハイブリッドカー、エコカーなどは当初なかなか認知されなかった。それは、走っていても分からないというようなことがある。

岸部のまちづくりは、長細い、リニア、線形であり、その地域特性を活かした目に見える形というのが大きなコンセプトになる。また、都市整備部の職員とともに、越谷レイクタウン、晴海トリトン、流山グリーンチェーン戦略を視察させていただいた。

吹田にしかないもの。例えば、吹田は、アサヒビールの発祥の地で、工場があり、水がきれいで、泉殿宮や佐井の清水、垂水の水などがある。また、吹田には、日本を代表する NASA にもとりあげられているニューメディカ・テックという、おそらく浄水技術では世界一の会社もある。もちろん大幸薬品のような二酸化塩素を使ったインフルエンザウィルスを少なくするようなリーディングカンパニーが何社もある。

私は、研究以外にも、地域ではロータリークラブに入っており、市民グループにもはまっている。

また、吹田市の予算をいただき、まちづくり市民塾を行っており、吹田くわいをテーマにシンポジウムなども開催している。市民の方がどのように思っているのかを知る上でもプロセスをブラックボックス化してはいけない。とはいえ、初めからみなさんの意見を取り入れるとなかなか収拾がつかない。

富田副市長からもあったが、医療先進、メディカルとエコロジー、エンバイロメント、すなわちメディ・エコの関係、これもキーワードだ。吹田が持っている水というキーワード、また、更地で森がないので、細長い土地にどのように緑を生み出すのか、壁面緑化も含め、目に見える新たな取組みというものをいろいろな形でお話できればと思っている。

#### (3)まちづくりの進捗状況について（説明）

事務局（吹田市都市整備部東部拠点整備室後藤参事）より、まちづくり計画の概要、まちづくりの理念、吹田市の特性、対象地域の特性、これまでの経緯、まちびらきまでの流れなどについて、パワーポイントにより説明を行った。

#### (4)質疑応答

##### ●山本委員

3点質問がある。1点目は、最初の説明で、CO<sub>2</sub> の削減がメインの都市整備との発言があったが、それが本会議のメインテーマになるのか。2点目は、メディカルとエコロジーの関係で、医療健康創生ゾーンがあるが、企業立地について、どのように考えているのか。3つ目は、経済産業省として、どのように関わっていけばよいのか。局を代表してきているが、環境系とまちづくり系と商業系などがあり、当室では総括的には行っているが、本音のところをお聞かせ願いたい。

### ●大村理事

経済産業省としての関わりについては、医療健康の中で、最先端医療や病院などがあるが、その背景には、産業系の医療というものがあり、そのあたりについて、アイデアをいただきたい。

### ●富田副市長

エコロジカルとメディカルについて、医療、健康、教育をクリエイトしていこうというのがまちのコンセプトである。冒頭のあいさつでも申し上げたが、本市は、国立循環器病センターや大阪大学付属病院など、ピッツバーグのような医療資源が核となる地域医療力の高いまちであり、一つのクラスターとしての立地特性があるのではと考えている。つまり、京阪神の軸線上からトリッピングが可能な地域であるので、医療資源とのクラスター化が可能ではと考えている。さまざまな機会をとらまえ、医療、産業という面からも、医療機器や医療の関連する IT 機器とも融合できないものか、様々な方とお話させていただいている。

また、あわせて、環境という側面からも、基本構想の中で、環境先進性が基本とされている。今や、環境を抜きにしてまちづくりはありえないのも事実である。ありきたりのエミッション対策ではなく、まちとしても有効な取組みとして、クールスポット、水面などの様々な取組みをモデル化したものをここで、実現していきたい。また、環境省の第三次環境基本計画においても、経済的社会的な融合という課題もある。環境を前提としながら、健康系、メディカル系の企業立地の誘導を図っていけば、単なる住宅系ではないまちができるのではと考えている。吹田市側のみの話をさせていただくと、この地では、直接的な人口増や固定資産税の税収増を狙っているのではなく、医療資源を有効にクラスター化することによって、吹田市の住みやすさ、利便性の高いということを市民に認知していただくことで、そのような立地をねらい、経済と環境が融合したまちをめざしたいと考えている。

### ●後藤参事

脱温暖化社会の構築、ヒートアイランド対策、生物多様性の保全、景観の保全、快適性を損なうことなく環境を共存させること、生活環境については、騒音、大気、また新たに室内環境などあらゆる環境問題への対策が融合したまちが環境先進モデルであると考えている。

また、都市基盤と環境配慮技術が融合して進んでいかなければ実現しない。エリアマネジメントというだけでなく、機能も含めた新たな考え方が必要ではと考えている

ここでいただいた知恵を織り込んでいくには、新たなチャレンジが必要であり、実際の都市基盤整備とのタイミング、連携したものが、いわゆるひらがなのまちづくりになる。

### ●佐々木委員

環境再生については、いろいろな段階で取組みがあり、建設工事におけるリサイクル、リユースにより負荷を低減する取組みや、気候風土、立地環境にもよるが、風の道などを土地利用条件、配置設計の段階から区画整理の計画に組み込んでいく取組みもある。また、都市機構が民間企業に土地を譲渡する際にも、譲渡条件に環境要素を盛り込むなど、さまざまな取組みがある。

### ●山本委員

快適な環境が企業を誘致し、誘致した企業間でクラスター化し、それが生活に還元するというような都市計画を創っていきたいというニュアンスでとらまえさせていただく。

●佐々木委員

アイデア募集コンペがあるが、先進的な環境技術やシステムだけでなく、自然の再生と快適性、美しさもまちづくりの価値を高める重要な要素である。

●山本委員

企業が立地する際には、通常、環境がハードルとなる。企業としては、環境基準が比較的ゆるいところに行きたいと考えるのが通常のパターンであるが、そのような中であえて環境基準の厳しいところのように企業を立地していくのか、国が主体的に動くよりも、市が主体的に動くことになると思うが、どのように絵を描いていくかが課題である。

●江川アドバイザー

世の中では、必ずしも成長経済をとっているところばかりではなくなってきた。環境の要件をきつくとすることであるが、それと抑制政策とは必ずしも一致はしないが、結局、長い目でみるとそういうところに進んで企業を置くということの意味が実は、非常に大きいのではと思う。従来型では、なかなか理解はしがたい面もあるが、いろいろなことを通して、そのことの意味を訴えかけていくというのが先進モデルのプロジェクトになっていくのだろう。世の中の従来の流れと違うところにこそこのプロジェクトの意味がある。そこのところを一生懸命、発信していく必要がある。

●鎌苅アドバイザー

住宅展示場のイメージ、車窓から見える風景をうまく活かしていくのが大切である。環境問題については、鉄もふくめて、資源が少なくなっている。世界的には、水資源も問題となっており、環境教育が大切である。また、景観の観点からすれば、世界中の人が訪れるまちというのは、景観にもものすごく配慮をしている。近視眼的な収益を獲得するのではなく、50年先、100年先を見据えた企業に魅力的な吹田のイメージをもってもらわないといけない。

吹田は水の田、ウォーターフロンティア吹田構想という形で、多様な水資源をもう少し再認識しないといけない。淀川水系などでいつも議論が出て、なかなか収拾がつかないが、今回は、利害関係が少ないので、協調しやすいのでは。また、デモンストレーション効果も大切である。車窓から見える風景についても、環境教育という形の先進的なモデルデザインを考え、100年先のことを見据え、資源制約、環境制約、種の多様性をもっと前面に出していくべきである。それが分かりやすい形でコンセプトになると思う。

●江川アドバイザー

100年ということがあったが、たかが100年でもある。再生というのは、昔栄えたものをもう一度栄えさせるということではなく、われわれが認識しなければならない再生というのは、いかに持続的な環境に再整備するかということである。

いかに社会状況の変化があろうとも、環境的にそれがうまく連続して、変化に応じて持続できるような環境を作っていく。これから、どんな企業であっても当然のことで、先進モデルというが、これに乗り遅れたら、すべて何も無いというぐらいのものとして、考えながら進めていきたい。

●佐々木委員

まちづくりを計画する立場からも、越谷レイクタウンでは、広大な水面をつくるということで、単発

ではなく、地区の計画全体が環境に向かっていているという中で、民間の住宅等も一部役割を担うということで、効果が出てくると思う。土地を売る立場でもあるのでバランスも大切ではあるが。

#### ●鎌苅アドバイザー

越谷レイクタウンでは、官民一体となったまちづくりが進められている。晴海トリトンをみせていただいたが、最初からベースを作っており、グランドデザインがしっかりしている。私も個人で美術館をやっているが、作品を想定してハコモノを作るのと、ハコモノを作ってから作品を入れるというのは全く違うものである。

#### ●山本委員

持続的に吹田のまちに企業がやってくるようなまちづくりを進めていただければよいが、モノ作り系は、今の感じてあれば来ない。研究機能をもったような企業、中小でも特に医療との連携も含めた企業が立地しやすい。環境というものが広すぎて、なかなか捉えにくいので、将来的に隣近所の問題も踏まえ、考えていくことが大切であり、そういうことを踏まえてコンペをやっていただければよいと思う。

#### ●田雑委員

今後コンペ等が行われ構想が纏まり、具体的な基盤整備の議論になると思われるが、具体化する際には、この地域の資源を踏まえて、何が売りになるのかをしっかりと検討することが重要と考えている。

大規模な商業開発をしようというものではないと認識しており、健康、医療、教育といった構想も理解しているが、明確なコンセプトを発信できることが大切であると思う。

現在、国会で審議されている歴史新法においても、歴史的風致という言葉を使っている。これは、いわゆる地域の伝統や文化、そこに住まう人々の生活を含めた概念であり、当然のようにどこにでもあるものであるので、よく検討して欲しい。

これからまちづくりの検討が進むに中で、しっかりとしたコンセプトを描いて、官民、また、同じ官の中でも連携させていかないと世界に発信できるようなまちづくりは難しいのではないかと。

昨今のわれわれの支援策については、地域の創意工夫をいかしたまちづくりを応援していこうという方向にあるし、公物管理の考え方も変わってきている。どのような手法でどのようなことを行うのか、グランドデザインをしっかりと描くことが重要であり、全体構想から基盤整備の計画に落とし込むときにしっかりと意識していただきたい。これは土地の売却や、まちに必要な都市機能の誘致につながっていくことなので、地元の吹田市、摂津市、事業者であるURにおいて、しっかりと認識を共有してもらうことが大切だと思う。

#### ●野田委員

環境省として力をいれている重点策に、CSR というものがある。企業の社会的責任であるが、利益だけで無く、生き残るためには、環境との両立を図らないといけなない。

CSRについて、優秀な企業の事例発表などもしており、梅田のスカイビルに新里山を設置した積水ハウスの取組みが印象深い。米やジャガイモなどを作っており、巣箱もあり、鳥が卵を産んでいる。周辺の住民にも開放し、小学校と連携し、じゃがいも栽培にも活用しており、地元から好感を得ている。

企業としてもこれから地元と連携して、市民、企業、行政の協働により、吹田市の環境再生の事業も、社会的責任を果たしてもらうという企業を誘致されると思うが、環境に熱心なたとえば地産地消、バイオ燃料など、努力してくれるような企業、モデルとなるような企業を誘致していただければと思う。

●春名参事

世界に発信するという意味では北ヤード、彩都、吹田操車場跡地が大阪の目玉である。北ヤードについても環境への配慮が求められており、彩都も、コンセプトで環境を謳っている。具体的にどう連携するかは別にして、相乗効果が期待される。行政の施策では、地球温暖化対策という形でエネルギーを多く消費する企業の届出や、ある一定以上の施設での緑化を義務付けるなどしているため、進出企業にとっては、ある意味制約の条件となるかもしれない。まちづくりを考える上でコンセプトを共有し、制約ではなくまちづくりの手段となったり、付加価値と位置付けられるような土壌作りができればと思う。

●鎌苅アドバイザー

吹田には、なにわの伝統野菜として、吹田くわいがあり、少しでも農薬があると枯れてしまう性質をもっている。今度それをテーマにシンポジウムを行うが、地産地消という話もあったが、吹田というのは都心に近いだけのベッドタウンとしての利便性では無く、そこで市民が誇りを持てるようなまちでなければいけない。文化とは何なのかを考えると、吹田くわいは環境のセンサーであり、そういう植物の特性を前に出していくというのも戦略ではないかと思う。規制をクリアーして良しでなく、それを超えてもっと理想を打ち出していくべきである。

●江川アドバイザー

一つの企業だけではできないことが、この地ではできる。そういう可能性を前面に出し、そういうことが社会に認知されるということが大きい。

●佐々木委員

まちをそだてていく主役は、市民であり企業であるので、そのあたりも十分に考えていければと思う。

●鎌苅アドバイザー

この地では、地下鉄の延伸も検討されており、延伸により、大阪へのアクセスも容易になり大きな可能性を持っている。

(5) 今後の進め方

今後の会議の進め方について、吹田市都市整備部大村理事が説明を行い、閉会した。

以上